

# 令和3年 **1**月の大阪森林便り

## 目次

### 今月の木の話 野間の大ケヤキ

- (1)  合板 2年9か月ぶり上昇 国産卸値 0.5%高 減産で在庫圧縮
- (2)  「森林療法」に科学の光 心身癒す効果解明
- (3)  合板輸入 強まる逆風 需要低迷に拍車
- (4)  南洋材丸太、消える市場 国産伸び「循環経済」シフト
- (5)  鉄鋼や木材 市況底打ち 在庫整理進み需給締まる



### 今月の木の話



### 野間の大ケヤキ

- \* 紀貫之を祀る野間神社（大阪府能勢町野間稲地）の立木。
- \* 境内の砂を野菜や家屋にふりかけると蟻がつかないそうです。
- \* 樹高 33M、枝張東西 42M、南北 38M、幹周 12Mで全国 4 位の太さ。
- \* ケヤキはニレ科の樹木で、本州、四国、九州に分布。
- \* 巨木に生長するには適地条件が必要。  
根系は通気性、透水性の砂土質を好むうえ、有機質土壌にも恵まれていなければなりません。
- \* ケヤキは、古事記も万葉集も「槻」という名前で登場。
- \* 西日本ではずば抜けた大ケヤキ。  
(2008 年発刊 (社) 大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用)

### (1) 合板 2年9か月ぶり上昇 国産卸値 0.5%高 減産で在庫圧縮 病院や老人ホーム 住宅以外の需要増

- \* 国産針葉樹合板の流通価格が 2 年 9 か月ぶりに上昇。
- \* 国産針葉樹合板の東京の卸価格は、11 月に比べ 0.5% 高。値上がりは 2018 年 3 月以来。
- \* 合板価格は今年 3 月から下落。7 月以降は横ばいで推移。
- \* 病院や老人ホームなど住宅以外に向けた需要が増えました。

\*合板メーカーは減産幅を縮めたほか、前年並みの稼働率に戻す例が出てきています。

\*国産針葉樹合板の10月の出荷量は299,150M3と、9月比で8.8%増加。前年同月比では8.6%少ないですが、5月に同2割減だったのと比べると持ち直しました。

\*合板メーカーの在庫は、5月をピークに減少が続きます。

9月末に8か月ぶりに前年同月を下回ると、10月末には9月末に比べて10.8%減りました。

前年同月比でも9%少なくなっています。

\*杉丸太の価格上昇もメーカー値上げの背景。10月中旬は9月中旬に比べて1%高。

\*新設住宅着工戸数は16か月連続で減少。

10月も前年同月に比べ8.3%少なくなっています。

\*メーカー値上げによる流通価格の上昇が今後も続くのかは不透明。

(2020年12月4日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (2) 「森林療法」に科学の光 心身癒す効果解明

\*森を歩くと元気になるメカニズムは近年、医学的に解明されてきました。

\*ドイツなどでは100年以上前から、心身を癒す森の力を健康増進やリハビリ、カウンセリングに役立ててきた歴史があります。

\*日本でも2004年に産官学による「森林セラピー研究会」が発足。

\*2006年からは「癒し効果が高い」とされる森を「森林セラピー基地・ロード」に認定する事業が始まりました。基地・ロードは現在、全国に65か所。

\*森を歩くとストレスホルモンが減って血圧が低下することなどが判明。

\*森林療法はNK(ナチュラルキラー)細胞を活性化させて免疫機能を高め、がんの予防効果があることも分かっています。

\*高まった免疫効果は約1か月続くので、月1度のペースで森林浴をすれば効果を維持できます。

\*東北医科薬科大学は、樹木が発する物質、αピネンなどフィトンチッドの成分を分析。木の種類ごとにどんな疾患に効くのかを示す「森林浴効能表」を作る作業に取り組んでいます。

(2020年12月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



### (3) 合板輸入 強まる逆風 需要低迷に拍車

ビル着工停滞 タワマン増 国産材に代替

\*型枠用合板の輸入が一段と減っています。

\*新築着工の低迷のほか、タワマンションの増加や国産材への代替なども逆風。

\*型枠合板の9割ほどを占める輸入物は、今後さらに減る可能性が高くなります。

\*2019年の合板輸入量は、2018年比13.3%減の254万M3。2020年も減少傾向。

\*建設計画を見直すビルも増えています。

\*インドネシア・マレーシアからの合板輸入量は、2019年までの10年間で26%減。

同期間の鉄筋・鉄骨鉄筋コンクリート造の着工面積の減少率(10%減)を上回ります。

\*タワマンションは、コンクリートの部材を事前に工場で作るプレキャスト(PC)化が進みやすくなります。PC工場では型枠合板は使いません。

\*国産針葉樹を主に使った型枠合板は、環境意識の高まりなどから販売量が増加。

\*日本からの買い付けが減ったことで現地工場の閉鎖も近年相次ぎ、品薄感から輸入合板価格が約2年ぶりに上昇。

(2020年12月12日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



#### (4) 南洋材丸太、消える市場

##### 国産伸び「循環経済」シフト

\*熱帯雨林産の南洋材。かつて日本は世界で最も多くこの丸太を使っていました。

\*2018年5月、主要産地のマレーシア・サバ州政府が森林保護を理由に丸太輸出を禁止。

\*日本は調達先をパプアニューギニアに切り替え、輸入量の8割がパプアニューギニア産に。

\*パプアニューギニアは2020年2月に木材産業の育成を理由に、丸太の輸出関税を引き上げ。

\*ピークの1973年に2679万M3あった南洋材丸太輸入量は、2019年に0.5%の134,000M3まで減少。

\*杉などの国産丸太は増え、2019年の供給量(製材用と合板用合計)は1762万M3と、2002年の1.5倍。

\*2000年に1%だった合板の国産材だった合板の国産材自給率は、2019年に45%まで高まりました。

(2020年12月19日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

#### (5) 鉄鋼や木材 市況底打ち 在庫整理進み需給締まる

##### コロナで国内需要不振、減産徹底

\*新型コロナウイルス禍に伴う需要減で下落してきた鉄鋼や木材などの国内市況が下げ止まりました。

\*需要減と原料高で収益が悪化した素材メーカーが減産を徹底。一部で欠品も出始めました。

\*国産合板の値下がりが止まりました。

\*住宅不振で合板メーカーは今春から減産を強化。

9月の生産量は約23万m<sup>3</sup>と、昨年10月のピークより2割少なくなっています。

\*住宅着工が9月まで15か月連続で前年同月を割り込む中でも、9月末のメーカー在庫は約13万m<sup>3</sup>と8か月ぶりに前年同月を下回りました。

(2020年12月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)